

広島大学学術情報リポジトリ  
Hiroshima University Institutional Repository

Title	韓・日語間の格助詞の比較研究 : 「ka」・「i」と「が」を中心に
Author(s)	ビョン ヒョン ソプ,
Citation	日本語・日本文化研修プログラム研修レポート集 , 1990 : 119 - 129
Issue Date	1991-03-01
DOI	
Self DOI	
URL	<a href="https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00039290">https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00039290</a>
Right	
Relation	



## 韓・日語間の格助詞の比較研究

－「ka」・「i」と「が」を中心に－

ビョン・ヒョン ソブ

### I. 序論

#### 1. 研究の目的と方法

韓国語と日本語は、膠着語として語族が同じである上、漢字の影響を著しく受けているために、韓国語と日本語は単なる外国語一般を越えて極めて近い関係にある言語と言える。誇張して言えば、韓国語と日本語ぐらい密接な関係があるのは、世界でも珍しい。

韓国語と日本語が文法上においても文法の構造や語順、そして表現・形式や助詞の置き方などが非常によく似ており、また、語彙においても極めて類似していることは、韓国語と日本語が互いにそれぞれの言葉の習得をたやすくさせている。

しかし、韓国語と日本語は、それぞれの固有性を持つ別個の言語としてその構造的な類似点以上に、文法の用法や音韻の体系などにおいて相違点があって、両言語の文法構造が互いに完全に一致するとは限らない。

韓国で日本語が外国語として教育が実施された以後、日本語に対する関心度が高くなるにつれて学問的な研究と韓・日両言語の比較研究が活発に進行してきた。しかしながら、系統的音韻比較と語彙比較は部分的にあったが、具体的な語彙の文法機能や意味論的機能の比較研究はすくなくあったといえる。両言語には同質的な特徴の助詞という文法要素を持っている。

助詞にはいろいろな種類があり、その中に格を表す格助詞がある。この格助詞にも幾つかの種類があるが、本稿では、韓国語の「ka」・「i」と日本語の「が」とを比較・対照しながら、その共通点と相違点を考察し、幾つかの使い分けの問題点について分析・検討しようとするのが目的である。

つまり、韓・日両言語の助詞「ka」・「i」と「が」の意味・用法・機能を中心に表現上の違い、注意すべき点を取り上げてみる。

#### 2. 格と格助詞の定義

格と格助詞が韓・日両言語において、それぞれどんなふう to 定義されているかを幾つかの例をあげてみよう。

(2)

国名 分類	韓 国	日 本
格	격은 명사·대명사등이 문장안에서 다른어와 가지는 관계 (格は名詞・代名詞等の文中の他 の語との関係) (東亜出版社・百科事典2)	格は名詞及び名詞相当語句が文中 の他の語に対して、素材的な意味 のレベルにおいて示す関係のあり 方の類型を言う。 (日本文法事典・有精堂)
格 助 詞	1. 체언이나 용언의 명사형 아래에 붙어서 그 체언이나 용언의 명사형이 문장안에서 다른말에 대하여 가지는 자리를 나타낸다 (体言もしくは用言の名詞形の下 について、その体言及び用言の名 詞形が文中のほかの語に対しても つ位置を示す) (東亜出版社・百科事典2) 、 2. 그 주원 임무가 체언을 문외 성분이 되게 함에 있고 뜻이 없다. (その主な役割が体言を文の成分 になるようにすることにあり、そ のものの意味はない) (標準文法・鄭 仁勝)	1. 助詞の一種であり、主として 体言についてその語が他の語にた いして持つ関係を表す語(の、が に、を、へ、で、と、から、より など) (日本語大事典・講談社) 2. 体言もしくは体言に準ずる語 について、その体言が文中の語に たいして、どのような関係にある かを示す。 (日本文法事典・有精堂) 3. 文中の体言について、それが 下に続く用言とどのような関係に 立つものであるかを表示する助詞 である。 (日本語の文法2・岩波書店)

以上の例から分かるように、韓・日両言語において格と格助詞についていろいろと定義されているものの、両言語共に言語上の表現の違いはあっても根本的な意味の違いは見えていない。

## Ⅱ. 本論

### 1. 韓国語の助詞「ka」・「i」と日本語の助詞「が」

現代の韓国語と日本語は見かけたところは

- ①語順が同じである。
- ②頭音法則が似ている。
- ③母音調和が似ている。
- ④単語の初めに子音が続けてくるのを避ける。
- ⑤単数と複数の区別をはっきりしない。

等の類似点が多く、特に、インド・ヨーロッパの言葉のように前置詞 (preposition) を使わずに後置詞 (particle) を使ったりする点が似ている。そのなかでも後置詞として使われる助詞は、使い方とその意味が同じことも多い。

しかし、全く同じものもあれば、似ているようで全然違うこともある。そのうちの一つが日本語の助詞「が」と韓国語の助詞「ka」・「i」である。

したがって、体言及び体言相当語句の下についてその下にくる述語との意味的關係を表し、事態を表現・整理するための助詞としての「が」と下にくる述語を中心にする「が」の用法を当たってみる一方、「ka」・「i」の用法との比較・検討をしながら、特に下にくる述語に重点をおいて説明したい。

日本語の助詞「が」には次の用法がある。

#### A. 主体を表す

- ①動作主体
- ②過程担当者
- ③状態や性質の張本人
- ④存在物
- ⑤一致する、一般に認定されること

(例文)

- ①子どもが泣いている。
- ②犬が餌を食べている。
- ③雨が降る。
- ④机の上に本がある。
- ⑤彼が会長なのは選挙で選ばれたからである。

#### B. 対象的存在を表す。

- ①知覚と認識の対象
- ②可能の対象
- ③感情の対象
- ④必要な物件

(例文)

- ①山が見える。

(4)

- ②算数がわかる。
- ③母が恋しい。 水が欲しい。
- ④金がいる。

C. 側面・部分を表す。

(例文)

○彼は顔が黒い。 ○僕は胸がどきどきした。

D. 連体格でも使われる。

(例文)

○市が谷 ○我が国 ○君がため

上で述べたように、「が」は下にくる述語が表す意味(属性、情意、状態、存在、動作、作用、変化など)の主体なのに対して、それが主格か、対象格かを表す助詞なのである。

また、下にくる述語を中心に当たってみると

E. 形容詞・形容動詞のなかで

- ①情意(情感)
- ②欲望(願望)
- ③好感と嫌悪感などを表わすとき、その対象になることには「が」が使われる。

(例文)

- ①私は故郷がなつかしい。
- ②あなたは、何が欲しいですか。
- ③私は音楽が好きです。

F. 動詞のなかで

- ①「たい」が付いて希望を表わすとき
- ②能力の対象
- ③可能の表現

(例文)

- ①私は甘いものが食べたい。
- ②彼は英語ができる。
- ③あの先生には質問がしやすい。

一方、韓国語の助詞「ka」・「i」に付いて当たってみると次の通りである。

「ka」は、終声(ㄷ)のない語句の下に付き、「i」は、終声(ㄷ)のある語句の下に付くと言うことが違うだけで、意味や機能は共に同じである。(例文の番号は比較しやすいように日本語の助詞「が」を整理したときの番号を付ける)

A. 主体(主格)を表わす。

- ①動作主体
- ②過程担当者

- ③ 状態や性質の張本人
- ④ 存在物
- ⑤ 一致する、一般に認定されること

(例文)

- ① 개가 짖는다. (犬がほえる。)
- ② 제비가간 집을 짓고 있다. (燕が巣を作っている。)
- ③ 비가 온다. (雨が降る。)
- ④ 방에 침대가 있다. (部屋にベッドがある。)
- ⑤ 그가 반장인 것은 반에서 뽑았기 때문이다.  
(彼が級長であるのはクラスで選んだからだ)

B. 対象的存在を表わす

- ① 知覚と認識の対象
- ② 感情の対象
- ③ 必要物件

(例文)

- ① 바다가 보인다. (海が見える。)
- ② 어머니가 그립다. (母が恋しい。)
- ③ 돈이 필요하다. (金がいる。)

C. 側面・部分を表わす

- (例文) ○ 그는 얼굴이 길다. (彼は顔が長い。)  
○ 나는 가슴이 두근거린다. (私は胸がドキドキする。)

D. 形容詞のなかで

- ① 情意(情感)
- ② 欲望
- ③ 好感と嫌悪感

(例文)

- ① 나는 고향이 그립다. (私は故郷がなつかしい。)
- ② 당신은 무엇이 갖고 싶습니까? (あなたは何が欲しいですか。)
- ③ 나는 음악이 좋다. (私は音楽が好きだ。)

E. 動詞のなかで

- 「~싶다」を付けて希望の対象を表わす

(例文)

- 나는 단것이 먹고 싶다. (다른것은 먹고 싶지 않다)  
私は甘いものが食べたい。(他のは食べたくない。)

(6)

- 나는 단것을 먹고싶다. (日本語では表現できない。)
- 나는 단것을 먹고싶어한다. (私は甘いものを食べたがる。) 【(注)一直訳】

F. 変化の対象

- 「ka」・「i」のうしろには、ある行動の結果として成る、対象をあらわす「～되다」がくる

(例文)

- 너는 장군이 되다. (君は将軍になれ。)
- 봄이 된다. (春となる。)

G. 語尾・助詞に付き、強めを表わす

- 어쩐지 심상리간 않다. (どうもただごとではない。)

H. 否定の「아니다」とともに用いて「～ではない」

- 박쥐는 새가 아니다. (こうもりは鳥ではない。)

以上のように当たってみたことを比較表にして整理してみれば、次の通りである。

区 分	「가」	「ka」・「i」
A. 主体表現		
① 動作主体	○	○
② 過程担当者	○	○
③ 状態の張本人	○	○
④ 存在物	○	○
⑤ 一般認定事実	○	○
B. 対象的存在		
① 知覚認識対象	○	○
② 可能対象	○	× (을/를)
③ 感情対象	○	○
④ 必要物件	○	○
C. 側面・部分表現	○	○
D. 連体格	○	×

E. 形容詞・形容動詞 ①情意・情感 ②欲望 ③好感・嫌悪感	○ ○ ○	○ ○ ○
F. 動作の機能 ①「～たい」「～싶다」の対象 ②能力表現(できる) ③可能類似表現 (～やすい、～にくい)	○ ○ ○	○ × (을/를) × (을/를)
G. 変化の対象 (～になる、～となる)	× (に)	○
H. 否定の対象(～ではない)	× (では)	○
I. 強めを表わす	×	○

{ (註) ○-対応する      ×-対応しない }

## 2. 「ka」・「i」と「が」が相応しない場合

(形容詞・形容動詞・動作の場合)

### A. 可能の対象

- (a) 字が(を)書ける。 (글씨를 쓸 수 없다)  
 (b) 目が(を)開けられない。 (눈을 열 수가 없다)  
 (c) 日本語が(を)できません。(일본어를 할 수 없습니다)

可能を表わす動詞「できる」、「れる／等れる」が使われて可能表現の対象を表わす。「を」は主として文語に使われ、口語にはほとんど使われていない。「が」は主格でなく対象格の機能をしているので「にほんごができません」という表現は「日本語を知りません」と同値関係になる。しかし、「が」の代わりに「を」を使っても間違いとはいえない。

日本の一般国民がよく読む90種の現代雑誌を集め、調査した結果、「動詞+がたい、にくい」を除いては「が」の方が多いか、「が」しか使われないと言うのが分かる。



(8)

区 分	が	を
可能動詞	38	16
動詞+れる/られる	17	13
出来る	85	—
動詞+がたい、にくい	1	2
わかる	30	—
可能	2	—

(日本国立国語研究所：現代雑誌90種用語研究報告)

### B. 自・他動詞

韓国語の形容詞や日本語の形容動詞は、その主体の表示には共に「ka」・「i」と「が」を使って、他動詞の目的の表示には両言語共に「을/를」と「を」を使う。

○私は本を読む。(나은 책을 읽는다)

○山が高い。(산이 높다)

○海が静かだ。(바다가 조용하다)

しかし、日本語には自・他動詞の境界が明白ではない場合がある。自・他動詞の両語動詞にしなければならない場合があるのである。(わかる、遊ぶ、答える、合う、等)

韓国語の「알다」と「이해하다」は日本語で「分かる・理解する」と訳せるが両者の意味の違いはほとんど感じられないのに反して、日本語の「わかる」は、変化状態だけを表現し、「理解する」とは違う言葉なのである。「理解する」は「物事の仕組みや状況、また、その意味するところなどをわかること」—大辞林・三星堂—と辞典に出ている。すなわち、対象に意欲的に作用して、その作用によって変化を表現するということである。

このように「わかる」と「理解する」は類義語でありながら、その特徴が違うために、「わかる」はわかるは自動詞で、助詞「が」を付けなければならないし、「理解する」は他動詞で、「を」を付けなければならない。

### C. 感情の表現

日本語では、「嫌いだ」「好きだ」「欲しい」などの感情表現(願望)を表わす形容(動)詞は、その感情の主体は「は」、その感情の対象語は「が」で表わすのが一般的である。時枝誠記はこれを対象語として命名し、主語と区別した。

- 私は病気が恐ろしい。(나는 병이 무섭다)  
 ○私は金先生がこわい。(나는 김선생님이 무섭다)

- 冷たいビールが欲しい。(차가운 맥주가 마시고 싶다)  
 ○私は肉が好きです。(나는 고기를 좋아합니다)  
 ○私は魚が嫌いです。(나는 생선을 싫어합니다)

- 水が飲みたい。(물이(을) 마시고 싶다)

しかし、主語が一人称でなく、三人称に変わると「が」は「を」に変わる。

- 彼は病気を恐ろしがる。(그는 병을 무서워한다)  
 ○彼は金先生をこわがる。(그는 김선생님을 무서워한다)

「おそろしい」「こわい」は一人称の主語には第一人称的形容詞を使ったが、主語が三人称に変わると形容詞をそのまま使えないので、「～がる」という接尾語を使って動詞として使う。しかしながら、「好きだ」「嫌いだ」のように「すく」「きらう」という動詞の連用形からきた形容動詞の場合は、また他動詞化する必要がないので「～がる」を付けない。したがって、「好きだ」「嫌いだ」は主語が一人称でも三人称でも感情の対象になる対象には「を」を付けずに「が」を付ける。

- 彼も肉が好きです。(그도 고기를 좋아합니다)  
 ○彼も魚が嫌いです。(그도 생선을 싫어합니다)

また、「水が飲みたい」は「水を飲みたい」という表現も可能である。前者は「たい」に表現の重点を置いたことであり、後者は「飲む」という他動詞の動作に重点を置いたことである。ここでも、「が」は対象語の機能をしているので「私は果物が好きだ」は「私は果物を好む」と同じ意味構造を持っていると言える。

## Ⅲ. 結論

今まで日本語の格助詞「が」とこれに対応する韓国語の助詞「ka」・「i」の意味・機能などを分析し、検討しながら日本語の学習者にとって日本語の助詞「が」と「を」の誤用の原因が母国語の干渉によって発生されることがわかった。

以上の論旨をまとめて結論にしたい。

1. 両言語の助詞「が」と「ka」・「i」が占有する意味の領域は同じではない。これは根源的な格構造の同質性の上で両言語の言語習慣的な異質性に基づいたこととされる。

2. 両言語の文法の体系において格助詞という文法要素の存在は両言語を同質的に位置づける要件になり、両言語の助詞「が」と「ka」・「i」は意味論的な観点から見るならば多義的であり、時には言語を越えて同音異義的な属性を持つと言える。
3. しかし、実際の現代の両言語の格構造と領域は異質的な要素が多く内包している。
4. 特に、日本語の格助詞「が」と韓国語の格助詞「ka」・「i」は対応するところが多いが、日本語の格助詞「を」と混用する場合があるので「が」と「を」の使い分けをはっきりしなければならない。これは、助詞が後続する語彙の意味によって用法が大きく左右されるからであるということは前で説明した。

「が」と「ka」・「i」に対しての研究考察が不足で、例文の列挙が不十分なところは否定しえない。また、全体としてのまとめや内容の深まりに欠ける点もある。が、お許しいただきたい。

最後に、この論文のため、たいへんお世話になった深見兼孝先生に改めて心から感謝したい。

## S 参 考 文 献 S

1. 金仁炫 「韓国人に対する日本語教授法の研究(1)－発音指導を中心に」  
『教育学研究紀要』第34卷第二部 1988. pp. 107-112
2. 日本語大辞典 講談社 1989
3. 北原保雄 外(編) 『日本文法事典有精堂』 1983. p. 98
4. 西田直敏 『日本語の文法Ⅱ』 岩波書店 1981. p. 205
5. 渡辺吉よう 『朝鮮語の進め』講談社 東京 1981. pp. 26-35
6. 時枝誠記 『国語学原論』 岩波書店 1977. pp. 375-376
7. 大野晋 『日本語の文法を考える』 岩波書店 1978
8. 金田一春彦 『日本語の特質』 NHK市民大学叢書 1982
9. 『国立国語研究所(日本)現代語、助詞、助動詞』 秀英出版社 東京 1982
10. 『国立国語研究所(日本)研究報告 現代雑誌90種用語用字』(第三分冊)1975
11. 山田孝雄 『日本文法論』 室文館 1970
12. 橋本進吉 『助詞・助動詞の研究』 岩波書店 1969
13. 李仁洙、金容権(編著) 『朝鮮語単語文法活用辞典』南雲堂 1985
14. 東亜出版社 百科事典部 『東亜原色世界大百科事典2』(韓国語)1981. p. 251
15. 鄭仁勝 『標準文法』(韓国語) 1968. p. 96
16. 郭永哲 『日・韓文法論の比較研究』(韓国語)学文社1983
17. 金榮振 『日本語助詞動詞活用辞典』(韓国語)正進出版社1980
18. 金敏洙 「国語の格について」『国語国文学』第49・50 合併号(韓国語)1970
19. 成光秀 『国語助詞の研究』(韓国語)蛍雪出版社1978
20. 崔賢培 『ウリマルボン』(韓国語)正音出版社1983
21. 李吉鹿 「韓・日両言語の文法体系についての比較研究－格助詞の機能と分布」  
『応用言語学』(ソウル大学) 第8巻2号(韓国語)